

お茶大家政 藤田純子

<研究の目的と方法>本研究においては、エジプト社会の中で家族計画はどのように人々に受けとめられているのかを探ることが第一の目的である。第二の目的は、エジプトにおける家族計画の現状や政策が持つ固有な条件を探り、その特性を分析することを意図する。そのために文化的、社会的伝統の中枢をなしているイスラーム文化とはいかなるものかを、特に家族、個人との関連で考察する。方法としてイスラーム法・文化、家族計画関連の文献の分析とカイロにおける事例調査を行った。

<結果と考察> 1. 結婚、出産などは女性にとっての通過儀礼であると認識されており、結婚、出産を常にセットで考えている。イスラーム文化では男と女を創り子供を産み育てるために、男女は相補的なものとしてそれぞれ役割を決められている。

2. 理想の子供数を2人と答え、男女1人ずつを理想の組み合わせと回答する者が多い。この観点にも男女の相補性が表出しており、成人男子は家族・親族における責任の役割遂行が期待される。老後の期待に関しては「子供への依存意識なし」と回答した者が多い。

3. 政府は経済社会開発計画の中で人口削減を意図し、家族計画を人口増加抑制手段と位置づけている。実施の面では、母子保健と関連させて行っている。

4. イスラーム文化は子供の数を制限するという人口制限政策は人々に浸透しにくいだが、経済的理由などの現実的な生活の全体的要請から家族計画を実行している場合が多い。家族計画の普及のためには、家庭の中で子供を産み、育てることの意味等を生活の総合的観点から考察し、集会的、共同体的に視野を広げ、共同体意識を強く持つ事が肝要である。